

令和7年度 第4回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和8年3月18日(水) 10時15分～11時30分

四国森林管理局 局議室(WE B)

2 議題

- (1) 管内における木材需給、価格動向等について
- (2) 各分野における現状や今後の見通しについて
- (3) 意見交換
- (4) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

令和7年の四国における木造住宅着工戸数は、7月以降は頭打ちでほぼ横ばいで推移し、対前年度比91.9%と低迷し、4年連続で下落となった。今後の動向は不透明であるが、建築資材の高騰等の影響により、着工戸数の大きな増加を見込むことは難しい状況である。

このような住宅需要動向の中、木材の需給状況については、輸入材からの代替需要等により、国産材製品は一定の引き合いは見られるものの、製材品の荷動きは総じて鈍い状況。原木の出材状況は、天候も安定し積雪等の影響も少なかったこともあり順調だが、虫害が出始める時期となることなどから、今後の出材量減少も懸念される。原木価格については、スギは保合、ヒノキの原木価格が弱含みで推移している状況である。

以上の状況から、原木の需給動向に引き続き注視が必要な状況であるが、現時点では国有林材の供給調整は行わず、複数年契約の事業地等を中心に森林整備を通じた安定的な原木供給に努める。引き続き製材品の需要動向や民有林材の出材状況を見極めつつ、地域の実情に即した供給調整の要否を検討していくこととする。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・高知県内の原木生産量は、10～12月は昨年並みで推移しており、再造林が増加傾向にあり、素材生産に係る担い手が対応することとなれば、生産量の拡大は難しい状況。
- ・生産活動は順調に行われている。
- ・現場までの通勤距離、搬出距離が遠くなってきており、生産性向上のマイナス要因となっている。

○ 原木市場・共販所等

- ・2月の入荷量は増加し、今後も増えてくると思われるが、虫害が心配。

- ・ 買い気は弱く全体的な動きは悪いと思われる。
- ・ 今後は大きな動きはないと思われるが、不安定な世界情勢が影響を与えるかもしれない。
- ・ 入荷量については天候も安定し増加。今後は請負事業が終了することから減少する見込み。木材価格は今年に入り一部の品目で若干弱含みとなったが、スギ・ヒノキともに保合で推移。今後さらなる国産材の需要拡大に期待。

○ 製材工場等

- ・ 荷動き少ないが価格は高く、スギが高止まり。
- ・ 製品は板ものが売れているが、他の建築用材はさっぱり。市場が収縮しており、寡占化が本格化してきた。
- ・ 原木調達は堅調な出材で安心して仕入ができています。原木在庫過多と製品販売の鈍化により2月に入り生産を抑制気味にコントロールしている。3月も厳しい状況が続くと予測。国産材へのシフトの流れに期待する。
- ・ 製品の動きが悪く原木価格は上昇しなかった。製品市況が悪い為、価格上昇は難しい。